

コメがつなぐ自治体間農業連携首長協議会設立趣意書

日本は今、国外のグローバリズムに起因する外的要因と、少子高齢化や人口減少といった内的要因が複雑に絡み合う中で、これまでにない社会課題に直面しています。中でも「食」の課題は、地域においても喫緊かつ本質的なテーマです。「食」は命の源であり、とりわけ古来より日本人の主食である「米」に改めて目を向け、生産と消費の両面から、食を支える仕組みづくりが求められています。

生産地と消費地の双方に課題がある中、互いを理解し支え合う“共存共生”の持続可能な関係性こそが、地域の生活安全保障、ひいては国全体の安全保障に直結します。

加えて、本協議会においては、生産や流通といった実務的な連携にとどまらず、産学官がそれぞれの立場で培ってきた「食と農」に関する知見や経験を持ち寄り、共有・体系化し、次世代へと継承していくことを重視します。とりわけ、長年にわたり蓄積されてきたその知見は、各主体だけに帰属するものにとどまらず、日本社会全体で大切にすべき“社会の叡智”として位置づけるとともに、本協議会という行政のプラットフォームを通じて広く社会に還元していきます。

については、課題解決に向けた実践的な連携を図るべく、志を共にする自治体が連携し、生産地と消費地の間にダイレクトなブリッジを築き、地方から日本全体の「食と農」の未来の在り方を提言・共創していく場として、ここに「コメがつなぐ自治体間農業連携首長協議会」を設立します。

参加自治体は、次の事項について相互に連携・協力し、自治体自らが地域からの実装を力強く牽引していくことをここに確認します。

- 1 地域から支える持続可能かつ強靱な「食のサプライチェーン」の構築
- 2 生産地・消費地の連携による「米」の安定生産・安定消費の実現
- 3 有機農業をはじめとする環境に配慮した農業の推進
- 4 次世代を育む食育・農育の連携推進
- 5 非常事態下における「米」を核とした広域連携型食料供給ネットワークの確立
- 6 医食同源の理念のもと、生産者の安定経営と消費者の健康増進を両立する「食」を起点とした地域社会の実現

令和8年5月18日

『コメがつなぐ自治体間農業連携首長協議会』設立参加自治体一同